



宮司ブレス 第百七十六号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年八月二十五日

◇宮司の柴田です。 八月梅雨の終わりを彷彿

(ほうふつ) させるような長雨が続きました。

今日は、ようやく、雲に晴れ間がでしたが、

その途端(とたん)に、残暑厳しき一日となり

ました。 朝明(あさあ) けが、いくぶん遅く

なり、夕闇(ゆうやみ) せまる時間も早くなる

につれて、朝夕はいくぶん凌(しの)ぎやすく

なりました。 晩夏を迎えています。

◇さて、マスクの着用や手指の消毒、さらには、

三密(さんみつ)をさける、「行動変容(こうどう

うへんよう)」を余儀(よぎ)なくされ、行動を

も制約(せいやく)される日々が、一年半も続

いています。 それは、新型コロナウイルス感染

防止、さらに、拡大を防ぐためには、他者への配慮(はい

いりよ)が欠かせないからでもあります。 コ

ロナ禍だからこそ、利他(りた)が大切なので

す。 「利他」とは、自分を犠牲(ぎせい)に

して他人に利益を与えること、他人の幸福を願

うことで、思いやり、優しさのことでもあります。

ボランティア活動や寄付行為(きふこうい)な

どが、利他的行動といえるでしょう。 世界各

国の研究で、利他的な行動をする人の幸福度が

高い傾向にあることが示されています。 幸せ

な人生を送るには、三つの心理的欲求の充足

(じゅうそく)が必要なのだという理論(りろん

ん)があるそうです。 一つめは、他の人とな

ながっているという関係性。 二つめは、何か

に貢献(こうけん)しているという有能感(ゆう

のうかん)。 さらに、自分で決めて行動する

自立性(じりせい)なのだそうです。 他人のために何かを

することの多くは、この三要素(さんようそ)

を満たすと考えられています。

◇私は、常々、神社神道は、「つなかりの宗教

(しゅうきょう)」だと考えています。 前号に

記述(きじゆつ)しましたが、目にはみえない、

大いなる何ものかという「サムシング グレー

ト」ともいえるべき神様、大自然に感謝をし、御

加護(ごかご)をいただき、そこに住んでいる

人々と運命共同体を築いていく、これが、まさ

に繋がりであり、関係性といえるでしょう。

神社神道で大切に行っているのは、まず、大自然

を大切にすること、そして、人々とのつながりを大

切にする、さらに、前向きに人生を楽しむとい

うことだと思えます。 宮司ブレスの既刊号

(きかんごう)にも詳述(しょうじゆつ)しま

したが、「悲観(ひかん)は気分 樂觀(れつかん)は意志」であります

から、前向きな気持ちにならなければ、「自立

性(じりせい)も「有能感(ゆうのうかん)」も得(え)られません。 夏

目漱石(なつめ そうせき)さんは、最晩年(さいばんねん)「さ

いばんねん)に「則天去私(そくてんきよし)」

という言葉を残されました。 小さな私を去

(さ)って自然に委(ゆだ)ねて生きることな

のです。 まさしく、大自然に身を委(ゆだ)

ね、私利私欲(しりしよく)をかなぐり捨(す)

てて生きていくこと、それこそが、利他的行動

といえるでしょう。 幸せな人生を送るために

は、やはり、「則天去私」、「利他的行動」を心掛

けることが大切なのではないでしょうか。

◇童話作家で詩人の宮沢賢治(みやざわ けん

じ)さんは、「世界ぜんたい幸福にならないうち

は個人の幸福はあり得ない」と仰(おっしゃ)

いました。 世界では、今でも、ミャンマーや

アフガニスタンでの政変(せいへん)など、宮

沢賢治さんが仰ったような「世界ぜんたい幸

福(ふく)ではありません、胸に刻(きざ)み込(こ)

まなければならぬ言葉でもあります。

◇中国の儒教(じゆききょう)で尊重される五種

(ごしゆ)の經典(ききょう)「易経(えいききょう)」に、「復(ふく)はそれ

天地(あめつち)の心を見るか」とあります。

「復」とは、繰り返すという意味です。 何回

も何回も繰り返し行うことは、天地の心そのものだと書いてあるのです。大自然のいとなみは、気の遠くなるような長い年月、一分の狂いもなく繰り返し返されてきました。それと同じように、繰り返し行う中にこそ、天地の心に通じる尊(とうと) さがあるというのです。同じことを黙々(もくもく)と繰り返ししていたら、そこに大きな徳力(とくりよく)があらわれる、大自然のいとなみは、そのことを教えてくれています。「行動変容」が、一年半続いていますが、大自然のいとなみからしたら、「たまゆら」瞬(まばた)きをするくらいの一瞬にしか過ぎません。「複(は)はそれ天地の心を見るか」、この言葉を反芻(はんすう)しつつ、黙々と利他的行動である「行動変容」の日々を過ごしたものです。御自愛ください。

◇八月の祭典行事予定(報告も含む)

▼月次祭

*八月一日、十五日



▼貴布祢神社、貴布祢稻荷神社月次祭

*八月一日

▼中元祭 *八月八日〜十五日

※家の宗旨が神道の方の御霊(みたま)祭を当宮

祖霊殿(そらいでん)にて齋行(さいこう)

▼朝粥会 *八月二十一日

◇八月の宮司動静予定(報告も含む)

▼山口県神社庁神職養成講習会

□講義

※「神社神道概説(じんじやしんとうがいせつ)Ⅰ」の授業、一コマ五十分の十八コマ十五時間

※県内神職の子弟(してい)に限り九名の受講(じゅこう)

*八月二十日 ※八コマ

*八月三十一日 ※二コマ

▼山口県神社庁下関支部

□支部幹事会 *八月四日

□支部総会 *八月二十七日

▼地元迫町自治会

□迫町自治会役員会 *八月十八日

▼人権擁護委員関係

□関係官庁中学校へポスター等配布

*八月六日

▼初盆詣り

□神職関係、神道家 *八月十三日

□六連島 *八月十四日

□総代、奉賛会、敬神婦人会関係他

*八月十四日〜十五日

◇九月の祭典行事予定

▼月次祭

*九月一日、十五日

▼貴布祢神社月次祭

*九月一日

▼若宮神社例祭

*九月三日

※当宮境内に鎮座(ちんざ)する地元迫町の農事(のうじ)の守護神(しゅごしん)でもあり、雨乞(あまごい)の御霊験(ごれいけん)あらたかな神社です

御霊験(ごれいけん)あらたかな神社

です

▼朝粥会

*九月二十一日

▼秋季祖霊祭

*九月二十三日

※家の宗旨(しゅうし)が、神道(しんとう)の方の合同の御霊(みたま)まつり

つり

◇九月の宮司動静予定

▼山口県神社庁神職養成講習会講義

*九月二日 ※八コマ

▼周東支部総代会講演 *九月九日

▼神社庁役員会 *九月十日

▼阿萩支部総代会講演 *九月十五日